日中友好新聞
府連通信
2025年７月号
日本中国友好協会
大阪府連合会
〒530-0013
大阪市北区
芝田2-3-19
東洋ビル本館207
TEL06-6372-8131
FAX06-6372-8132
郵便振替口座
00970-5-8978
E-mail:info
@jcfaosaka.org
ホームページ
http://
jcfaosaka.org/

71回大阪府連大会を開催
支部活動や各担当から発言

6月29日午後、国労大阪会館で第71回府連大会が28名の参加で開催されました。浅田美奈子副会長が開会あいさつ、浜正幸さんと高田佳誉子さんを議長に選出して議事が始まり、日中友好協会兵庫県連合会前田清会長が来賓挨拶され（写真）祝電メッセージ30団体の中からから3団体「中華人民共和国駐大阪総領事薛剣」「日本中国友好協会会長井上久士」「全大阪生活と健康を守る会連合会」を読み上げて紹介しました。

松尾豊理事長が大会議案・規約改正案などを提案し質疑・討論を行ないました。

発言は浅田美奈子さん「全国女性交流会について」平松悦雄さん「全国大会に参加して」高田佳誉子さん「漢詩・漢文講座で学んだ事」石井勉さん「帰国者支援運動について」山本範枝さん「中国百科検定について」岡田英樹さん「楽しく元気な支部活動つくり」佐藤倫理さん「城北支部活動の経験」栗山俊子さん「中河内支部の取り組みについて」浅田勝美さん「堺支部の活動について」の9名。

25年度新役員には、会長山本恒人、副会長浅田美奈子、理事長松尾豊、副理事長浜正幸、事務局長近藤好幸、事務局次長澤野井公夫、常任理事7名、理事21名を選出しました。

日中不再戦・アジアと世界の平和に貢献するとの大会宣言を採択しました。

堺支部　公開講座や歴史探訪を行なう

堺支部は毎月の「月例会」や隔月の「詩吟健康教室」「中国留学生就職祝」や歴史探訪「猪飼野」「アジアから問われる日本の戦争展」「連続市民公開講座」に取り組んできました。

月例会では各会員がチューターになりミニ学習会をしています。隔月の詩吟健康教室は新たに3名が参加しました。中国留学生とは卒業後も交流しています。

歴史探訪「猪飼野」は北出さん（なんじゃもんじゃ会）が比賣許曾神社やセルロイド会館、御幸森商店街（コリアタウン）などを案内され、韓国料理とマッコリで乾杯しました。

（写真はコリアタウン）

アジアから問われる日本の戦争展には「万人坑と大久野島ガス資料館」を展示しました。

連続市民公開講座は「戦後80周年地域の歴史を探る和泉市にあった横山炭鉱―ここでも朝鮮人労働者が働いていた―」講師三宅美千子さん（和泉市における在日コリアンの歴史を考える会）と『山東省・煙台市からの報告「若者たちは日本留学を目指す」』講師浅田勝美さん（堺支部支部長・魯東大学日本留学別科文化交流）に多くの市民が参加しました。堺支部再スタート10周年さらに発展させます。

（浅田　勝美）

74日中大会開く　発言と感想

6月14日と15日、東京都内で日中友好協会第74回大会が開催されました。会場参加は90名、全国各地の会場から190名がオンライン参加。大阪から7名の代議員と評議員が参加、浜代議員が議長団に選出され、大会会場で3名が発言しました。大阪府連事務所会場と城北支部会場から15名が参加しました。

横のつながりが見えた

女性部から推薦していただき、大会初参加でした。ひと言で感想を言うなら「楽しかった」。参加者の発言がどれも良かった。特に全国女性交流会。

東京都連会員さんのリードで「笑いヨガ」。会場全体に「ワッハッハ」と笑い声が響きました。女性も男性も全員が笑顔で演台に顔を向けています。さっきまで「どうしたら協会を盛り上げられるのか」と眉根を寄せておられた役員の皆さま、答えを見つけられましたね！

いまさらどうして「女性の活動」を取り上げるのかなというご意見には、「横のつながり」を広げたいのですとお答えしましょう。連合会・支部、それぞれに条件があり、会員同士が集まるのが難しい所もあるでしょう。それを乗り越えるために、第74大会で第1回全国女性交流会が開催されたのは画期的です。楽しく、取り組みやすい交流で日中友好運動をつなげていきましょう。

府連の女性部は全国から注目されているようです。私は発言で「府連理事会と各支部が女性部を応援してくださっているからこそ」と言いました。この部分、全国理事会に届いていますように。

（高田　佳誉子）

不再戦平和活動が組織強化拡大に

大阪府連として不再戦平和活動のひとつとして、日中戦争時に中国本土から日本兵士に反戦平和を訴え、世界の反戦平和事業のシンボルと言われている長谷川テル顕彰の会を立ち上げ活動・運動を行っています。

しかし日本ではほとんど知られていない、語られない、伝えられない、そんな中、1月と3月に毎日新聞に大きく掲載していただきました、

長谷川テル繋がりでこれまでも、全国から連絡いただき、その都度丁寧に対応して日中友好協会を説明して地元にお返してきました。

現在は福島県会津地方に16名の読者を組織して大阪から日中新聞郵送しています、本日その代表の方が女性評議員として会場唯一の和服姿で参加していますので紹介させていただきます。

昨日不再戦・平和は組織拡大は難しいという言葉聞きました、地味ではありますが、こつこつ行っています。全国はひとつです、お互い頑張っていきましょう。

（平松　悦雄）

着物をまとい会津から大会初参加

会津の山村の人影も疎らなホームに、私は勝負服の着物をまとい佇んでいました。正面に見える磐梯山に「大会に参加したいと大阪西支部の事務局長の平松悦雄氏にお願いして、評議員としての参加を認められました。

でも、さて、どうなりますことか、お山様いつものように見守っていてください」とお願いして、上り電車の人となった。

東京駅で平松氏と落ち合い、その後は緊張することなく行動することが出来ました。会場の入り口で関係者らしき女性に「お着物きれいですね」と親しげに声をかけられこの一言で私の緊張は一瞬にして消えました。

会場の雰囲気は想像していたよりも若々しく、年齢的には私と変わらぬ世代の方々が多いと思われましたが、この若々しい雰囲気はどこから？個々の日中の平和を願う情熱からでしょうか、私には居心地の良い会場でした。

日中友好新聞にいつも執筆されている方々が、次々と、あいさつ、講演、発表とされ、私は、新聞紙上でなく、生でスターに出会った興奮を覚えました。入館料を支払うこともなく、高レベルの講義を、次々を聴講できまりでした。今こそ平和のために、中国との友好の大切さを身をもって感じることが出来ました。

している日中友好新聞の読者（大阪西支部準会員）が現在16名います。中国カレンダーをお届けしているのは25部。この方たちに、日中友好協会を知らずして新聞・カレンダーを勧めている自分の無責任さを反省して、日中友好協会を肌で知りたく大会参加をお願いしました。

参加出来てよかったです。間違いなく、清く、温かい血の流れた、真に平和を守る人々の集

（西支部　山本　俊子）

城北支部　会員目標80人を達成
74大会で３つの部門で表彰受ける

６月の日中友好協会第74回大会では、３つの部門で城北支部が表彰されました。「支部活動の部」「支部ニュースの部」「会員の部」でそれぞれ最優秀賞を受賞し３冠という栄誉を受け取ることができました。

20日支部役員会終了後に受賞祝賀会を12人の参加で行ないました。佐藤倫理支部長は「今回の受賞は、支部としての活動が反映されての表彰であり、会員のみなさんに支えられ頑張ってきた成果です。

今回の受賞を励みに、楽しく元気な活動で会員目標80人を早期達成するために、みなさんの一層のご奮闘をお願いします。29日の府連大会で80名の達成が報告されました。（編集部）

飛鳥へ古墳ハイキング

5月31日、天候が心配されましたが曇り空のちょうどよい気温となりました。城北支部の会員とその家族含めて14人（２歳のかわいいお孫さんが一人）が飛鳥駅に集合しました。

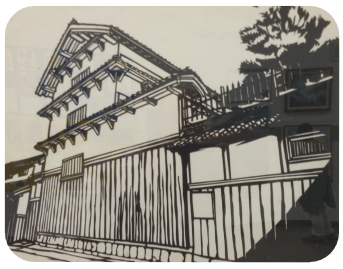
古代史に興味はあったのですが、古墳群を見てまわるのは初めての体験です。石室が解放された「岩屋山古墳」小高い丘の頂上に見える「牽牛子塚古墳」巨大な前方後円墳「欽明天皇陵」「吉備姫王墓」「鬼のせっちん」と「鬼のまな板」最後に「天武・持統天皇陵」を訪ね、飛鳥駅に戻りました。各史跡で西脇義彦さんが含蓄のある詳しい解説をしてくださいました。（粟田三樹夫）

中国百科検定

第17回検定は7月5日大阪国労会館で初級４名、３級３名、２級２名が受験されました。第18回検定は12月6日3時から谷町6丁目大阪府社会福祉会館実施級は初級・３級・２級・１級・特級

73回 関西平和美術展

きりえ・近藤好幸さん
富田林　寺内町



6月17日から第73回関西平和美術展が天王寺市立美術館で開催され、絵画や写真・書・きりえなど、２００点余りが展示されました。

10組で新支援法第４次国会請願

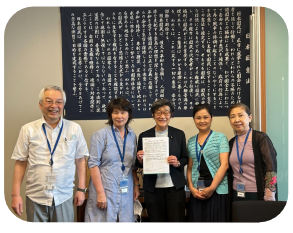
石井 勉

第４次国会請願が全国大会の翌日6月16日開催されました。行動には福岡、兵庫、京都や首都圏からも参加しています。上海テレビや関西テレビのクルーも取材に来ています。会員と中国残留日本人二世の組み合わせを10組ほど作り、厚生労働委員を中心に議員事務室を訪問し、二世の窮状を話し新支援法の支援の対象に二世を加えるよう訴えます。私たちの担当は7件です。

午前中は大椿ゆうこ議員の事務所へ、去年の請願の際、秘書さんに応接間に通され、冷たいお茶を出していただき、二世の話をじっくり聞いていただきました。「二世も高齢化し、急がなければならない課題だ。」と激励されました。一言お礼を言いたかったのですが、来客中で残念。

午後は柘植芳文議員へ、参議院厚生労働委員会委員長です。自然と気合が入ります。同じく来客中で議員とは話せませんでしたが、秘書が対応してくれました。「何とか審査未了という門前払いではなく、審議をしていただけないだろうか？」「お気持ちはよく分かりました。たくさんの陳情があり、苦労しています。」とのこと。

訪問の締めくくりは倉林明子議員、いつも協会がお世話になっているところです。今回も通行証の発行や参加者控室の確保をしていただきました。チャイムを押そうとしたところ議員本人とばったり！応接室で冷たいお茶をいただきながら、二世たちの話を熱心に聞いていただきました。



制度を知ると歴史がわかる
第1回 周 封建制から郡県制へ

周王朝は紀元前１０５０年頃から紀元前２５６年までの約８００年間続きました。しかし、紀元前７７０年、周は北方民族に攻め込まれ、都を鎬京（こうけい：西安）から、東側の洛邑（らくゆう：洛陽）に移します。

遷都前が西周、遷都後が東周です。東周は、その前半は春秋時代、後半は戦国時代です。

西周時代の統治は封建制でした。王が男系一族に領地をあたえて世襲の諸侯に任命しました。諸侯はその地の支配権を認めてもらうかわりに、王に対して貢納と軍役の義務を負いました。

土地による主従関係を封建制と言います。血縁集団（宗族そうぞく）が社会の基本ですから、集団の決まり（宗法そうほう）を守り、頂点の王を守ることが最も重要でした。

ところが西周が北方民族によって滅ぼされてから、王の権威が衰えます。東周の前半、春秋時代には５人の諸侯（五覇）がいましたが、彼らは周王朝を北方民族から守ろうとしました（尊王攘夷）。しかし五覇の一つ晋が、臣下によって韓、魏、趙の３つの国に分割されると、実力本位、下剋上の戦国時代が始まります。

戦国時代に覇権を争ったのは７人の諸侯（七雄）です。七雄は自国の領土を郡と県に分けました。そして領土を血縁者ではなく、中央権力から派遣する役人に治めさせました。秦代に完成する郡県制の始まりです。

春秋戦国時代に血縁集団社会が崩れて、諸侯が台頭してきた背景には、農業生産力の向上があります。鉄製の農機具を使っての牛耕です。余剰生産物が生まれ、物々交換から貨幣経済に発展します。また諸侯は富国強兵策のために思想家を重んじました。乱世に活躍した諸子百家の学説は、今の中国そして日本にも脈々と生き続けています。

10回シリーズで以下、秦、漢、魏晋、隋、唐、宋、元、明、清と続きます。（高田 佳誉子）

太極拳岐阜合宿　24式の形の意味を知る

6月21・22日岐阜市内で「24式の形の意味を知る」講習会が恒岡正勝本部指導員の指導で行われました。岡山・和歌山・大阪・三重・岐阜・愛知の総勢45名の参加者でした。

5月の和歌山講習会から一段前に進んだ簡化24式の攻防の講習で、形の持つ攻防の意味を理解して、動作の練習をしました。実際に対練で動作をすると体か堅くなって動けなくなることも起こりました。

如何に身体の緊張をなくして放鬆して頂勁と化勁して攻防できるかが非常に難しいと感じました。本来の太極拳は「対人動作で、式と式の間に攻防の意味がある」したがって単なる様式的な美しさだけでなく、何かをしている美しさ(機能美)が求められるとのこと。「武術の原理」（散収随迎・引化拿発 等）も学びました。今回はこうした内容の攻防で、普通の太極拳の教室ではなかなか教えて頂くことがない非常に興味がわく内容でした。（日中愛知ＨＰ）